

# 連珠っておもしろい 九段 河村典彦

● 第123回 ●

## ■ 第61期名人戦

毎年名人戦はやってくる。今年もいつの間にか、という感じだった。今年大きく変わったのは、場所である。従来の西焼津のホテルから相模原市の国民生活センター研修所へ変わった。国民生活センターと言うと商品テストをする機関ぐらいにしか思っていなかったが、立派な研修施設も持っている。一番良いのは宿泊費が安い所で、1泊4000円未満である。しかも、公益団法人には割引が適用されるとのこと。こんな嬉しいことはない。会議室を借り切り、静かな場所を確保して3日間落ち着いて対局をするのができた。一番

の問題は食事で、一応宿泊施設はあるものの、ホテルとは違い休日には朝食がない。三食とも外からデリバリーしてもらおうことになった。そのため、参加費を今年は2万円とさせていた。結果的には費用を大幅に抑えることができたので、来年以降もここで開催したいと思っている。

国民生活センター相模原研修所

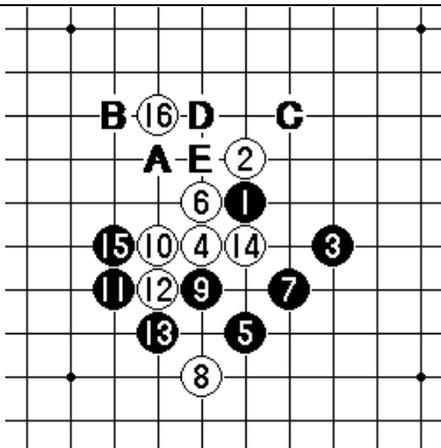


<岡部-中山戦>



今回のA級リーグの優勝候補はやはり中山九段だろう。優勝確率は50%以上あると思っていた。しかし、直前の世界戦で岡部九段が好調だったので、ひよっとすると岡部君の優勝もあるかもと思っていた。それ以上に関西勢に期待していたのだが、シードは持ち帰ってほしかった。全員勝ち越してシードが取れず、というのは関西勢にとっては一番迷惑な話である。来年は誰が出るかが（誰が落ちるか）が早くも注目である。

棋譜を見てみよう。まずは、優勝決定戦となった、岡部・中山戦から。  
黒 岡部 白 中山  
白16以下黒勝ち



新月から始まったが、黒7、9と引く形は昔の本にも載っている形だ。黒13は14に打つ手の方が良く、黒15までの形は白16がA（E）までの四追いを含む絶妙の一手というところで良く知られている。ちょうどこの局を解説していたので、これは中山君の優勝は決まった！と思っていた。中山君

がこの手を知らないはずはなく、ほどなく勝つだろうと思っていた。しかし、である：

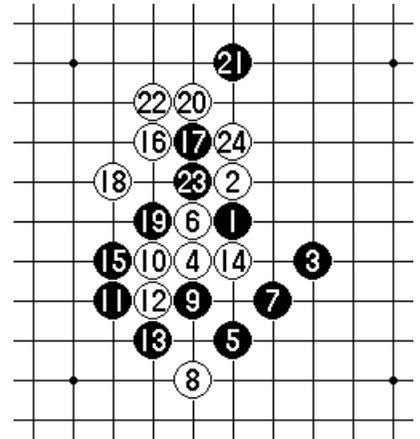
黒17に対し長考している。なるほど、具体的にどうやって勝つかをそういえば知らないかと私も思っていた。結局、白勝ちが発見できず防ぎに回り、黒有利の終盤戦に進んだ。最後は執念で黒勝ちを出し、岡部九段の2回目の優勝が決まった。岡部君は世界戦から好調が続いていたが、まだその勢いが残っていたようだ。今回2回目の優勝なのだが、ほぼシードを獲得する割には優勝がなかった。まるで以前の奈良さんのような成績である。ただ、挑戦手合いは1、2局連敗で厳しい結果となっていて、果たして最終どういいう結果になっているだろうか？

ちなみに、黒17に対して白18からの勝ち方は、白20と引いて22と組めば、こ

<岡部ー長谷川戦>

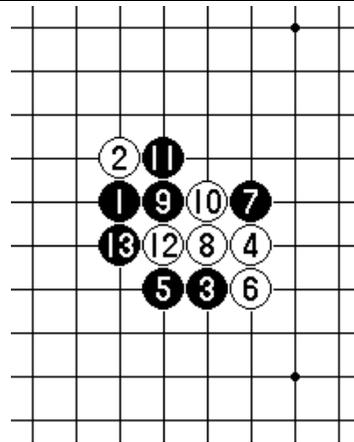


れが四追いフクミになっている。黒23で一回ノリ手を打っても、白24がまたフクミで以下白勝ちだった。



ここで、注目の一局を紹介しよう

黒 藤田 白 牧野  
黒13以下白勝ち



遊星で始まったが、何と白4！という手が飛び出した。八題打てるかな？とも思うのだが、黒5で互角になるならこの手も可能だろう。本当にいろんな手があるものだ。藤田・牧野という似た者同士だったので、こういう一局が生まれたのだろうか。本局は黒13が敗着で、ここは反対止めが絶対だった。

この手のいい所は、何と流星からでも同型になると

<牧野ー河野戦>



<館ー藤田戦>



ころだろう。今回は解説を多くやったが、これもまた実戦とは違って面白い。しばらくは続けたいと思う。